

## 事業の概況

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これに伴い、当第2四半期連結累計期間における売上高は、従前の会計処理と比較して減少しております。

### ■企業のIT投資需要は底堅く推移

当第2四半期連結累計期間(2022年1月1日~2022年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の再拡大により経済活動に一定の制約を受けたものの、まん延防止等重点措置が解除された後は行動制限が緩和されるなど、経済活動は徐々に正常化に向かいました。一方、ウクライナ紛争の長期化による世界的な資源高に円安も加わり物価が高騰するなど日本経済への影響は避けられない状況となり、景気の先行き不透明な状況が続きました。

このような経済状況にあってIT投資分野で

は、国内景気の先行き不透明感から一部に慎重な姿勢も見られましたが、企業のデジタル化への対応や競争力強化を目的としたIT投資需要は底堅く推移しました。

一方、一部の商品では部材や半導体不足に加えサプライチェーンの混乱が続くなど、引き続き供給面で不安定な状況となりました。

### ■お客様接点の強化に努める

以上のような環境において当社グループは、「お客様に寄り添い、DX・全商材で共に成長する」を2022年度のスローガンに掲げお客様接点の強化に努め、前年落ち込んだ新規顧客向け活動が回復に向かうなど営業活動も徐々に正常化への動きが見られました。具体的には、DX推進に役立つ最新のソリューション提案に加え、改正電子帳簿保存法への対応などワークフローの見直しやデジタルドキュメントへの移行についても継続的な支援を行いました。また、中堅・中小企業のお客様でも手軽にAIの価値を享受できるソリューションの実現に努めました。

経済活動は徐々に正常化へ  
資源高、円安、物価高騰

新規顧客向け活動が回復へ  
最新のソリューション提案

## ■新会計基準適用が売上高に影響

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、4,453億36百万円(前年同期比4.6%減)となりました。利益につきましては、営業利益307億78百万円(前年同期比7.4%減)、経常利益317億47百万円(前年同期比7.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益228億48百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は181億70百万円減少しております。また、前第2四半期連結累計期間に同様の基準を適用した場合、売上高の増減率は前年同期比1.0%減となります。

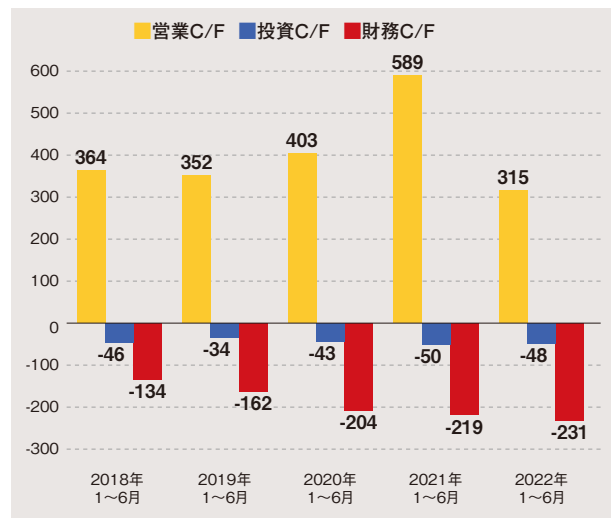
(単位：百万円)

	2021年1～6月	2022年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	466,625	<b>445,336</b>	-4.6%
(参考増減率)			-1.0%
営業利益	33,246	<b>30,778</b>	-7.4%
経常利益	34,245	<b>31,747</b>	-7.3%
純利益*	23,657	<b>22,848</b>	-3.4%

\*親会社株主に帰属する純利益

## ■キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動から得られた資金は「売上債権の増減額」が増加に転じたことなどにより、前年同期に比べ273億55百万円減少し、315億83百万円となりました。

投資活動に使用した資金は「有形固定資産の取得による支出」が減少したことなどにより、前年同期に比べ2億52百万円減少し、48億12百万円となりました。

財務活動に使用した資金は「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ11億49百万円増加し、231億2百万円となりました。

## 四半期別の概況

### ■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)は減収でしたが、第2四半期(4～6月)は増収となりました。

第1四半期(1～3月)売上高は、2,100億69百万円(前年同期比12.2%減)、第2四半期(4～6月)売上高は、2,352億67百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

なお、前第2四半期連結累計期間に「収益認識に関する会計基準」等を適用した場合、第1四半期売上高の増減率は前年同期比9.1%減、第2四半期売上高の増減率は前年同期比7.6%増となります。

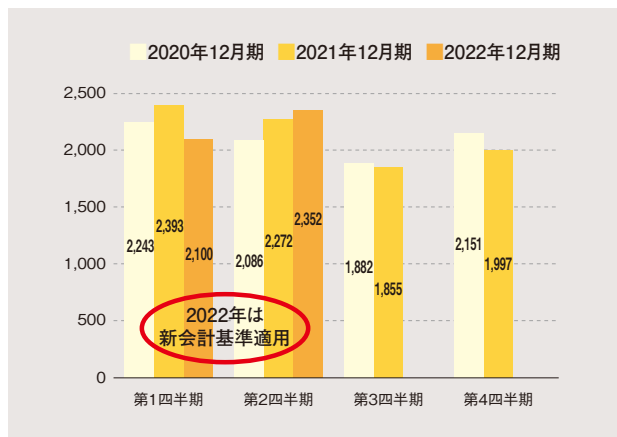
### ■経常利益の推移

経常利益も、第1四半期(1～3月)は減益でしたが、第2四半期(4～6月)は増益となりました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、143億38百万円(前年同期比16.8%減)、第2四半期(4～6月)経常利益は、174億8百万円(前年同期比2.4%増)となりました。

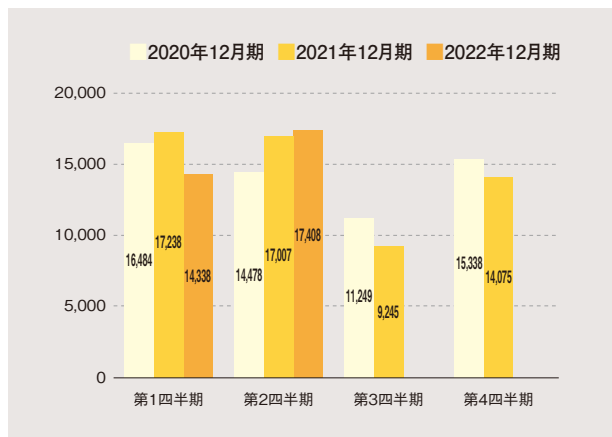
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



## 事業セグメント別の概況

### ■システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、前年のGIGAスクール需要に伴うパソコン販売台数の減少や一部商品供給不足の影響を受け、売上高は2,870億37百万円(前年同期比5.0%減)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は30億25百万円減少しております。また、前第2四半期連結累計期間に同様の基準を適用した場合、売上高の増減率は前年同期比4.2%減となります。

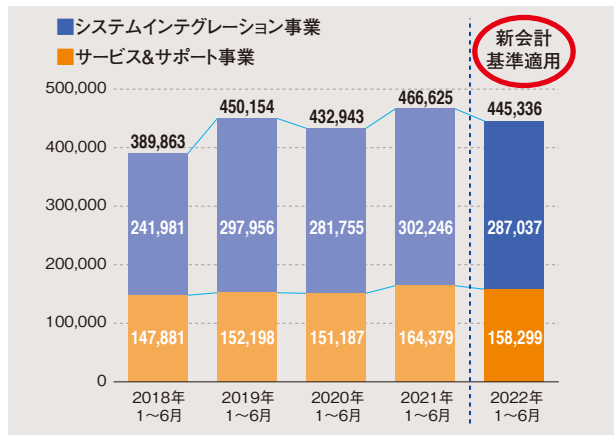
### ■サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」やサポート事業「たよれーる」などストックビジネスに引き続き注力し、売上高は1,582億99百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は151億44百万円減少しております。また、前第2四半期連結累計期間に同様の基準を適用した場合、売上高の増減率は前年同期比5.4%増となります。

事業セグメント別の売上高推移

(単位：百万円)



セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2022年 1~6月		
	金額	増減率	参考増減率
システムインテグレーション事業	287,037	-5.0%	-4.2%
サービス&サポート事業	158,299	-3.7%	+5.4%